

## 「東アジア情勢の歴史的背景」

私もあまり歴史に詳しくないが、日本が朝鮮半島や大陸まで勢力を伸張したのは、かつて三回あった。一度目は古代白村江の戦いの頃、二度目は豊臣秀吉の天下統一後、三度目は明治維新の後である。それぞれ日本側の大義名分が有ったろうが、これらは朝鮮や中国からは侵略と捉えられて当然だろう。対して日本が中国や朝鮮半島から侵略を受けたのは元寇の頃の一度きりで、それも朝鮮軍は水先案内的な参戦であつて、主力は元(モンゴル)軍であつた。即ち、漢民族も韓民族も積極的に日本を蹂躪した史実は無い。

日本の地勢的にユーラシア東端、東アジアの端の島国、即ち世界の一番隅っこの国であつた。誰にも蹂躪されるような魅力も無く、元の中国統一後の強力過ぎた兵力の処理の為に一度だけ侵略を受けただけ。ただ日本は、時折新政権による国内統一戦争の勢い余つて半島や大陸に攻め込んでいる。日本は中国大陸の攪乱要因の一つであり、特に朝鮮半島にとつての日本は、数百年に一度襲つて来る災厄の国である。中国は、トルコ系やモンゴル系、満州系の周辺諸民族の隆盛の度に蹂躪され、支配もされてきたから、日本はそこまで歴史的には脅威ではない。

日本は地勢的に魅力の無い土地であるが故に、世界史の泥沼の紛争に近代まで巻き込まれずに平和な時を刻んで来た。近代以前の日本史は、世界史に影響はされても、殆ど影響は与えていない。国内の小競り合いの歴史とも言える。しかし、日本は決して小さな島国ではない。江戸時代の江戸は、当時世界最大の都市だった。もちろん現在の東京も世界最大の都市である。日本は、普段は世界史の傍流にあつて忘れられていくのに、登場すると驚愕の業績を示す不思議な国なのだ。それだけ世界を驚かす力を涵養出来る、平和で小さくない国なのだ。

この明治維新からの150年間は、日本が初めて世界史に大きな影響を与えた時代だった。歴史的に世界をリードする経験の全く無かつた日本が、先の大戦で敗戦したのは、ある意味で当然の帰結だっただろう。それでも東西冷戦の前線にあつた事で、戦後の劇的な復興と世界第2位の経済大国となれた。もちろん歴史に涵養された優れた日本人集団が有ったからこそである。

興国が新しい世界史を刻もうとしている。かつて数百年間世界をリードして来た欧米諸国も徐々に輝きを失いつつある。日本も同様だ。私はそれを恥じることも足掻くこともないと思う。かつてはイスラムが世界をリードした時代もあつた。中国は有史以来、多くの時代の世界最大GDPを誇つた。日本は目立たなくなつても、これからも日本らしく国を強くしていけばいい。

中国もアメリカもしたたかに利用すればいい。無理をする必要は無い。やるべきことをやって、したたかに目立たずに強さを磨いていけばいい。真の実力があれば、舞台はそれを見逃さないだろう。

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebookアドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会  
事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net